

地球市民プラザ八王子だより



世界の人とふれあいタイム



「世界の人とふれあいタイム」は八王子国際協会設立前の2004年5月から始まり、2012年2月で57回目、44の国と地域の方をお迎えしてきました。

年5回、映像などを使い、その国の現状、文化、歴史などについて話してもらい、ゲストと参加された市民の方々との交流を図ります。日常生活を離れ、国際理解と国際交流が身近で体験できます。是非、ご参加ください。

2月26日(日)のゲストは、来日20年になるドイツのシュワルツさんでした。スイスで生まれ、4才でドイツのバイエルン州北部のヴェルツブルグ市に移住されたそうです。現在は中央大学でドイツ語の講師をされながら、日本の子どもたちのためのボランティア活動も行っています。なお3人のお子さんのお母さんで日野市にお住いです。

ヴェルツブルグ市はドイツの南方に位置しフランケン地方の中心で、八王子の1/4の面積に61もの教会があり、地形は甲府盆地に似ています。アスパラ、果物、大きな人参が有名で、フランケン・ワインと木の文化の町で橋が多いのも特徴です。また学生の町でもあり、学生はビールを、地元の方はワインをよく飲みます。

ドイツ国旗の色は、上から黒、赤、金色です。この色の説のひとつには、ローマ帝国統一を意味しフランスに習ったもので、黒は軍服、赤は軍服の裏生地、金は金ポタンの色だそうです。

秋には野菜や果物の収穫祭が行われ、11月11日にはランタン(冬の始まり)祭りがあり、この頃になると初雪が降ります。なお11月23日は彼岸で、これを過ぎ12月になると5日から24日まではクリスマス祭りが開催され、1月7日までモミの木が飾られます。クリスマス祭りではソーソクや吹き出しガラスが売られていて屋台もでています。2月頃になるとカーニバルが行われ、衣装はお母さんが作り

ます。真ん中にローズヒップジャムが入ったドーナツの季節でもあるそうです。

家にはワッペン(日本での家紋)があり、結婚すると標準的な日本の家系と同じで父方のワッペンが引き継がれます。

水については上流に行くほど美味しいとの事ですが、地形的に石灰地層が多く、水の中に



石灰が混じっていて、洗濯機やコーヒ機器が半年で駄目になるので、酢を入れて使用するとの事でした。ここでの水はウイスキーには適さないとの事でした。

今回は大変な人気で、参加者はこれまでで最多を数えました。シュワルツさんは、大学の講師だけあって若い方から年配の方まで、職業も元商社マンの方々から学生まで幅広い交流活動をお持ちで、ファンが集まったようです。参加者のアンケートでも全員が話の内容は「大変良かった」という回答でした。

報告者：世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉
(※4月22日(日)は「アルジェリアの話」でした。)

シュワルツさんご自身の感想も寄せられました

公の場での久しぶりの発表で、かなり緊張しました。あいにくの雨、寒い日に、お客さんの参加も気になりましたが、予定されていた40名の来客は大幅に超えて、びっくりしました。自分の田舎の日常的な話でいいですと聞いて、一年間の風習などの写真を用意しましたが、発表後の1時間の質問タイムにどんな質問が来るか、まったく読めなかったので不安が残っていました。ですが、「世界の人とふれあいタイム」のスタッフの方々の手厚い準備と来客が興味を持ってきている様子に、とても気持ちの良い空間が出来上がって、お互いに楽しい時間を過ごせたと思います。生活習慣、風習、環境、インフラストラクチャー、歴史など幅の広い質問があり、出来る限り答えられたと思います。沢山の来客に大変感謝しています。